

6月7日 名古屋港管理組合議会 6月定例会 江上博之議員

## 名古屋港でのしゅんせつは航路維持等だけに 伊勢湾での新たな埋立はやめ自然環境の保全を

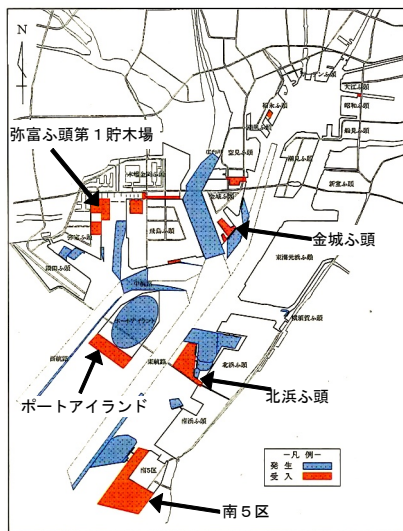
4月の市議選に伴い、名古屋港管理組合議会議員が愛知県議会と名古屋市議から各15名が選任され、日本共産党からは江上博之議員が選任されました。

名古屋港管理組合の6月定例議会では議長選挙や委員会委員の選任、監査委員の選任などが行われたのち、一般質問が行われました。6月議会では江上博之議員だけが質問に立ち、「自然環境保全と名古屋港のしゅんせつ」について質問を行いました。質問の概要を紹介いたします。

### 自然や漁業等に影響する埋立をやめよ

中部国際空港第二滑走路建設は現在の発着便数等を見ても必要性はないのに、その埋立造成に名古屋港のしゅんせつ土砂を利用する話が浮上しています。江上議員は、名古屋港内で自然、海流、漁業などに影響する埋め立てを行っていいのか、という観点から質問を行い、名古屋港でのしゅんせつの現状と土砂の処分先であるポートアイランドが満杯状況になっているについて今後の課題についてたずねました。

【しゅんせつの計画（港湾計画）】



中部国際空港沖公有水面埋立事業の概要

・埋立地面積：約290ha  
・計画容量：約3,800万㎡

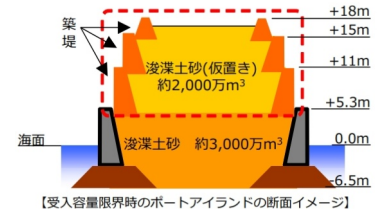


(上) 中空沖の埋め立て計画  
(左) 名古屋港のしゅんせつ土砂の発生箇所と埋め立て地

### ポートアイランドはもう満杯状態

管理組合は「必要かつ最小限の計画で、新たに生じた土地は、物流用地や工業用地、憩いのための緑地を確保するなど有効に活用。埋立にあたっては環境に十分配慮している。岸壁の整備・建設のしゅんせつで過去5年平均で年間約48万㎡、航路や岸壁での維持しゅんせつでは、国が過去5年平均で年間約15万㎡、本組合で過去4年平均で年間約6万㎡をしゅんせつ、ポート

アイランドは埋立計画高さを最大で10mを超える状態で仮置きしており、あと数年で受入れ限界に達する。国は、新たな土砂処分場として、中部国際空港沖を候補地として準備している」と答えました。



### 大江川の埋立計画に利用してはどうか

江上議員は、大江川の河口を閉め切り、埋め立てる計画について、「名古屋市がJR東海のリニア残土を利用するという話がある。JR東海が岐阜県に対し、瑞浪市日吉トンネル建設に伴う残土（ヒ素などの有毒物質が繰り返し検出されています）を海域に埋め立てるといった報道があり、大江川に持ってくるのではないのか。どういう話がされているのか。土壌汚染の基準はどうなっているのか」とたずね、「埋め立て計画があるのなら名古屋港のしゅんせつ土砂が使えないのか」と質問しました。

### 大江川に汚染土を入れてはいけない

管理組合は「市と連携しリニアの発生土の活用の可能性も打ち合わせしている。大江川の埋立は汚染土壌が埋め立てられているので液状化による流出がない方法で進める」と答えました。

大江川の埋立は海域はとして海洋汚染防止法が適用され、陸地の土壌汚染対策法より、ヒ素なら10倍も緩い基準となっていることについての指摘には「造成する材料の土質等は、今年度の基本設計で検討する」と答えました。

### しゅんせつ土砂は多様な活用検討を

江上議員はしゅんせつ土砂の利活用に向けた調査状況をたずね「地盤の低い地域のかさ上げ等に利用できないのか」と質問。管理組合は「人工干潟の造成に関する実証実験の結果、しゅんせつ土砂は、干潟を造成する材料として適用可能だが、波の高い海域での長期安定性の確保が課題。地盤の低い地域のかさ上げ等への活用には輸送コストの他、軟弱な土砂なので強度を上げる改良が必要等の課題がある。まず、西部地区で海生生物の生息場になる浅場の造成に取り組む」と答えました。